

論文内容の要旨

専攻名 (課程名)	多文化社会学専攻 (博士前期課程)	氏名	谷野 和
題名	手仕事の現代的意味 —芭蕉布職人の生活誌から—		
<p>本研究の目的は、芭蕉布職人たちの生業を中心とする生活誌を描き、制作を取り巻く諸側面をかれらがいかにとらえ、対応してきたのかを通時的・共時的に示し、職人の視点からみた手仕事の現代的意味を考察することである。</p> <p>今日の手仕事は、需要の減少や職人の高齢化、後継者不足、経済的困難、工程の機械化などが複雑に絡み合った問題に直面している。その一方で、手仕事は「自然との共生」や「地域文化の継承」といった理想的なものとされる傾向がある。従来の研究では、ものが持つ象徴的意味や制作技法、経済活動としての役割などがそれぞれ個別に議論されてきた。しかし、変化が激しく不安定な現代社会の文脈において手仕事を位置づけるためには、これらの側面を総合的にとらえる必要がある。そこで、手仕事が多面性をもつ生業である点に着目し、職人の実践を明らかにする。</p> <p>芭蕉布制作は、イトバショウの栽培、繊維の採取、糸づくり、布を織る工程に至るまで、すべてが同じ職人によって手作業でおこなわれている。多くの布の生産が近代化にともない機械化されてきたなかで、芭蕉布制作は、きわめて徹底した手作業であり、また、先に述べた手仕事をめぐる諸課題をすべて内包している。</p> <p>本研究では、現代的な課題に直面しながら芭蕉布を制作してきた40代から60代の芭蕉布職人3名にインタビューと参与観察をおこない、かれらの生業の履歴と、制作工程における素材とのやりとりを描いた。その結果、芭蕉布制作には経済的困難と技術的困難をともなうことが明らかになった。経済に関して、職人たちは受注の有無によって収入が左右されるため、芭蕉布制作のみで生計を立てることは容易ではないととらえていた。</p>			

そこで、生業の組み合わせや問屋を介さない直接販売で対応していた。技術に関しては、糸の質がイトバショウの個々の特性や気象条件に影響を受けやすく、制作工程で同じ手順を踏んでも同質な糸をつくるのが難しいという課題があった。職人は各工程において、素材や天候の状態を鑑みて、作業を微調整することで対応していた。その一方で、このような技術的困難は、芭蕉布制作の魅力の一つにもなっている。糸の出来が予測困難であるため、職人の間では「どのような条件でうまくいったのか」という情報共有がおこなわれていた。こうしたやりとりをとおして試行錯誤を重ねることの面白さが、職人を制作へと没頭させていると考えられる。

職人は、ライフステージの変化に対応しながら芭蕉布制作を続けていることも明らかになった。かれらは、芭蕉布制作を労働・遊び・休息が一体化した生業としてとらえており、生活のなかで制作と子育てや休息の時間を柔軟に調整していた。そのため、長時間の制作や高齢期においても制作可能な手仕事となっていた。このように、職人は子育てや体力の衰えに応じて制作と生活を調整することで、芭蕉布制作を継続させている。

本研究で職人の人生を描くことにより、職人にとって芭蕉布制作とは、生計を立てるための手段であると同時に、人生をとおして向き合うライフワークとしても意味付けられていることが明らかになった。このことは芭蕉布制作に限らず、現代における手仕事の意味を考えるうえでの一つの示唆を与えるものといえる。

※作成に当たっては、文字は10.5ポイントでA4用紙2枚以内とする。